

第 366 回 昭和の森自然観察会

どんぐり

花島 伸美(千葉市)

日 時：2022年10月9日(日) 10:00~12:00 天気：晴れ

参加者：21名(大人11名、子ども10名) 指導員：6名 管理事務所1名

担当指導員：白波・花島

10月はどんぐりの観察会が毎年行われている。今年も昨年に引き続き昭和の森の7種類のどんぐりとどんぐりの木(クヌギ・コナラ・カシワ・マテバシイ・アラカシ・シラカシ・スダジイ)に親しんでもらうことにした。親子で遊べる要素を取り入れて、ビンゴゲーム・クラフトを中心に観察会のプログラムを構成した。

〈どんぐりビンゴゲーム〉

7種類のどんぐりの木と葉を描いたマス7個にどんぐりの芽、枝付きのどんぐり(落ちているもの)の2マスを加え、資料のどんぐりの図を参考にして、見つけたらビンゴカードにシールを貼ってもらった。

・クヌギ・スダジイ・マテバシイは2年でどんぐりが成熟するので、1年目のどんぐりの赤ちゃんを予想し、見つけてもらった。(事前に枝に札をぶら下げておいた)

・カシワ・コナラの穴の開いているものや落ちている枝付きどんぐりからチョッキリやゾウムシの幼虫を見つけ、ハイイロチョッキリの幼虫やコナラシキゾウムシの説明をした。

・どんぐりの実生やどんぐりの芽が出ているものを見つけて、どんぐりがどのように木になっていくかを知ってもらった。

〈クラフト〉

予め彩色したマテバシイ・クヌギのどんぐりに自由に目や口を描いてもらってハロウィンのお化けどんぐりを作ってもらった。

〈どんぐりの木と私たち〉

どんぐりの木と私たちという画像(担当指導員の9歳の息子さんがプログラミングしたもの)を使用して、子ども同士のやり取りが行え、有意義な時間が共有できた。

【まとめ】

親子での参加が予想されたが、2歳から9歳までの子どもがどんぐり、虫、どんぐりの赤ちゃん、クラフト等それぞれについて楽しんでもらえたと感じた。観察した後のマテバシイの実生を「これから大きくなるものだから土に戻してあげよう。」と誘うと「柔らかい土が良いね。親の木そばが良いね。」と子ども達が積極的に場所を探して穴を掘ってどんぐりを埋めて土をかけてくれた。観察するだけでなく、どんぐりの木に対する優しさも感じられ、子どもと共感しあえた観察会となった。

